

授業科目名： 代数学Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日比 孝之/長谷川 貴之
		担当形態：クラス分け・単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 主に行列や行列式の演算と1次方程式の解法など，線形代数の基本事項を習得する。さらに，データを行列として表現できることや，画像処理や統計量の算出方法と行列の関係を学ぶことで，現代において，代数学がもたらした貢献とその重要性について理解する。				
授業の概要 行列の性質について講義した上で，その応用方法についても述べる。				
授業計画 第1回：ガイダンス，基本事項の確認 第2回：行列とその演算1（加法・スカラー倍） 第3回：行列とその演算2（積・分配律） 第4回：正方行列 第5回：行列と連立一次方程式 第6回：行列の基本変形 第7回：簡約な行列 第8回：連立一次方程式の解法 第9回：正則行列 第10回：置換 第11回：行列式の定義と性質（サラスの方法） 第12回：行列式の性質 第13回：クラメールの公式 第14回：行列の応用例：データの行列表現，画像処理（フィルタリング），統計量の算出 第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト 適宜プリントを配付する。				
参考書・参考資料等 入門線形代数（三宅敏恒著，培風館，1991年刊）その他，適宜，授業時に紹介する。				
学生に対する評価 中間課題40％，期末試験50％，授業態度10％ 必要に応じて授業内で前回の復習と課題の補足説明を行う。				

授業科目名： 代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：日比 孝之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 行列の固有値，固有ベクトル，ベクトルの1次独立などの線形代数の基本事項を習得する。 さらに，AIや自然言語処理，画像処理などの情報処理技術とベクトルの関係を学ぶことで，現代に代数学がもたらした貢献と数学の重要性を理解する。			
授業の概要 行列とベクトルの対応関係と線形代数の基本事項，およびベクトルの情報処理技術への応用例を講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス，数ベクトルの復習・線型空間 第2回：ベクトル空間 第3回：一次独立と一次従属 第4回：ベクトル空間の基と次元 第5回：線型写像 第6回：像と核 第7回：階数 第8回：線型写像の行列表現 第9回：線形変換 第10回：固有値と固有ベクトル 第11回：行列の対角化 第12回：内積 第13回：正規直交基と直行行列 第14回：対称行列の対角化 第15回：ベクトルの応用例（AI，自然言語処理，画像処理）			
定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 入門線形代数（三宅敏恒著，培風館，1991年刊）その他，適宜，授業時に紹介する。			
学生に対する評価 中間課題40%，期末試験50%，授業態度10% 希望者には必要に応じて課題の成績を開示する。			

授業科目名： 代数学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：日比 孝之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 群，環，体などの代数学の基本事項を習得する。さらに，群，環，体の暗号への応用例を学ぶことで，代数学が現代にもたらした貢献と，情報化社会における数学の重要性を理解する。			
授業の概要 演算を備えた集合である代数系のうち，群・環・体の基本事項と，これらの情報セキュリティなどへの応用例を講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス，基本事項の復習，合同演算 第2回：群の定義 第3回：部分群と位数 第4回：巡回群の性質 第5回：群の直積 第6回：対称群 第7回：剰余類と剰余群 第8回：群の構造 第9回：環・可換環 第10回：イデアル 第11回：剰余環 第12回：環の準同型定理 第13回：体 第14回：有限体 第15回：応用例（暗号，図形の対称性，デザイン） 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 暗号から学ぶ代数学（川添充著，技術評論社，2021年刊）			
学生に対する評価 中間課題40％，期末試験50％，授業態度10％			

授業科目名： 数理科学入門Ⅰ (ベクトル・行列)		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 貴之/親松 和浩
		担当形態：クラス分け・単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標				
三角関数、ベクトル、行列の定義を理解しそれらの基本的な計算法を習得する。さらに、2次元、3次元の一次変換、アフィン変換、固有値、固有ベクトルの定義を学び、コンピュータを用いた図形の変換の計算法を習得する。				
授業の概要				
CGやゲームの空間設計、AIなどでの情報の整理、分析、加工、最適化といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングやグラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。具体的には、CG、ゲーム、AIのプログラミングで必要となる、三角関数（及び逆三角関数）、多種類のデータを扱う数学であるベクトルと行列、一次変換及びアフィン変換、固有値固有ベクトルについて学ぶ。				
授業計画				
第1回：ガイダンス、数値計算でのデータの表し方				
第2回：図形と式				
第3回：三角関数（三角比）と逆三角関数				
第4回：三角関数と弧度法				
第5回：平面ベクトルとその成分表示				
第6回：平面ベクトルの内積				
第7回：中間課題				
第8回：空間座標と空間ベクトル				
第9回：平面図形の一次変換				
第10回：行列とベクトル				
第11回：行列の応用（逆行列、連立一次方程式、固有値固有ベクトル）				
第12回：行列と一次変換				
第13回：空間ベクトルと空間図形				
第14回：まとめと課題演習				
第15回：最終課題				
テキスト				
授業開始時に配付する				
参考書・参考資料等				
授業開始時に指示する				
学生に対する評価				
各回の授業課題30%、中間課題30%、最終課題40%として評価する。全ての課題を提出することが単位認定の必要条件である				

授業科目名： 幾何学Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：日比 孝之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 二次曲線の基本事項と性質，さらに曲率の算出方法とその幾何学的意味について理解する。 また，曲率の画像処理への応用方法を学ぶことで，幾何学が現代にもたらした貢献と情報処理社会における幾何学の重要性を理解する。			
授業の概要 微分幾何学のうち，平面内と空間内での曲線と曲率とその算出方法について講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス，基本事項の確認 第2回：導入1（平面二次曲線：放物線，円，楕円，双曲線） 第3回：曲率 第4回：正則曲線とパラメータ表示 第5回：平面曲線の弧長パラメータ 第6回：フルネーセレの公式（平面曲線） 第7回：曲率の幾何学的意味 第8回：導入2（偏微分） 第9回：空間内の曲線の弧長パラメータ 第10回：フルネーセレの公式（空間内の曲線） 第11回：曲率と捩率 第12回：平面曲線と空間曲線 第13回：ブーケの公式 第14回：微分幾何学の応用例の紹介：画像処理（顔認識，CAD，形状検出） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 じっくり学ぶ曲線と曲面（中内伸光著，共立出版，2005年刊）			
学生に対する評価 中間課題40％，定期試験50％，授業態度10％			

授業科目名： 幾何学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：日比 孝之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 微分幾何学のうち、3次元空間における曲線や曲面に対する曲率の計算方法について学ぶ。 さらに、数理モデルや画像処理に対する微分幾何学の応用方法を学ぶことで、幾何学が現代にもたらした貢献とその重要性を理解する。			
授業の概要 さまざまな曲面の曲率の算出方法など微分幾何学の基礎とその応用例について講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス，導入 第2回：正則曲面 第3回：法ベクトルとガウス写像 第4回：第1基本量 第5回：第2基本量 第6回：曲率（法曲率，主曲率，平均曲率，ガウス曲率） 第7回：さまざまな曲面とその曲率 第8回：ガウス，ワインガルテンの公式 第9回：ガウスの基本定理 第10回：曲面上の曲線 第11回：ガウスーボネの定理 第12回：ガウスーグリーンの公式 第13回：ベクトルの外積の幾何学的意味 第14回：画像処理や数理モデルなどの応用例 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 適宜，プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 じっくり学ぶ曲線と曲面（中内伸光著，共立出版，2005年刊）			
学生に対する評価 中間課題40％，期末試験50％，授業態度10％			

授業科目名： 基礎解析学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：日比 孝之/ 長谷川 貴之/満倉 英一
		担当形態：クラス分け・単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標				
関数の極限や連続性の厳密な定義や，1変数関数に対する微積分の計算とその幾何的な意味などの解析学の基本事項を習得するとともに，微積分の数理モデルなどへの応用例を学ぶことで，現代において微積分が情報処理技術に対する重要な役割を担っていることを理解する。				
授業の概要				
1 変数関数に関する微積分の基本事項を講義した上で，その応用方法についても講義する。				
授業計画				
第1回：ガイダンス，導入				
第2回：関数の極限と連続性				
第3回：関数と逆関数				
第4回： ε 論法				
第5回：微分の基礎（平均変化率，微分係数，導関数，微分可能性）				
第6回：微分の計算（合成関数，逆関数）と曲線のパラメータ表示				
第7回：平均値の定理				
第8回：高次関数とライプニッツの公式				
第9回：テーラーの定理				
第10回：積分の基礎（不定積分，定積分，置換積分と部分積分）				
第11回：積分の計算（有理関数，無理関数，三角関数）				
第12回：広義積分				
第13回：区分求積法				
第14回：面積と体積，曲線の長さ				
第15回：微積分と数理モデル				
定期試験				
テキスト 適宜プリントを配付する。				
参考書・参考資料等 入門 微分積分（三宅敏恒著，培風館，1992年刊）その他，適宜，授業時に紹介する。				
学生に対する評価				
中間課題40%，期末試験50%，授業態度10%				
希望者には必要に応じて課題の成績を開示する。				

授業科目名： 応用解析学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：日比 孝之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 多変数関数に関する微分・積分の計算方法と幾何的な意味を理解する。さらに，解析学と画像処理・3Dモデリング・AIなどの情報処理技術の関係を学ぶことで，情報化社会における数学の重要性を理解する。			
授業の概要 多変数関数の微分・積分の基本的な演算とその意味，さらに微積分の応用例を講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス，多変数関数 第2回：極限 第3回：連続性 第4回：偏微分 第5回：全微分 第6回：合成関数の偏微分 第7回：接平面，極座標変換 第8回：高次偏導関数 第9回：テーラーの定理 第10回：極値問題 第11回：重積分 第12回：様々な領域の二重積分 第13回：二重積分の変数変換 第14回：応用例（画像処理，3Dモデリング，AI） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 入門 微分積分（三宅敏恒著，培風館，1992年刊）その他，適宜，授業時に紹介する。			
学生に対する評価 中間課題40％，期末試験50％，授業態度10％			

授業科目名： ベクトル解析	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川 貴之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 ベクトルに関する内積，外積，微分，積分などの演算とその意味，さらにベクトルと数理モデル・画像処理との関係を学ぶことで，データをベクトルとして扱うことの利便性と，情報社会において数学がもたらした貢献と数学の重要性を理解する。			
授業の概要 演習問題を交えながらベクトル演算の基本とその応用方法について講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス，ベクトルの基本事項の確認（表記，大きさ，和と差） 第2回：ベクトルの内積 第3回：ベクトルの外積 第4回：3重積 第5回：ベクトルの微分と接ベクトル 第6回：ベクトルの勾配 第7回：div演算子とラプラス演算子 第8回：rot演算子 第9回：ベクトルの座標変換 第10回：ベクトルの積分 第11回：線積分とグリーンの定理 第12回：面積分とストークスの定理 第13回：応用例1（数理モデル） 第14回：応用例2（画像処理） 第15回：まとめ 定期試験 テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 ベクトル解析 道具と考えていねいに（上野和之著，共立出版，2010年刊） ベクトル解析（加須栄篤著，共立出版，2019年刊）			
学生に対する評価 中間テスト40％，期末試験50％，授業態度10％			

授業科目名： 数理科学入門Ⅱ (微分・積分)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 貴之/親松 和浩
		担当形態：クラス分け・単独	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標			
数学ソフトをフルに活用して、AIなどで使われる関数の値の最適化や、様々な現象を表す微分方程式の解を求める計算を学習する。関数の増加減少や極限での振る舞いといった定性的性質を議論できることが重要な目標である。また、微分方程式の解の可視化に関しても学習する。			
授業の概要			
AIなどで重要な最適化や、微分方程式を用いて定式化される様々な現象の数学モデルについて、基本的な解法をコンピュータも利用して学習する。この授業では、微分積分の基本の復習から始めて、微分方程式の基本的な解法について学習する。ラプラス変換とフーリエ変換とそれらを用いた微分方程式の解法についても学ぶ。授業では Web数学アプリを用いた実習を行い、授業内容の理解を深め、様々な問題への応用力の養成を目指す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、基本的な数列と関数			
第2回：関数のグラフと方程式・不等式			
第3回：数列と関数の極限			
第4回：微分係数と接線の方程式			
第5回：関数のグラフと導関数			
第6回：関数のグラフと高次導関数			
第7回：中間課題			
第8回：不定積分と定積分			
第9回：微分と積分の応用（偏微分、速度と加速度、体積積分）			
第10回：簡単な微分方程式			
第11回：外力が加えられたシステムの微分方程式			
第12回：ラプラス変換			
第13回：フーリエ変換			
第14回：課題演習			
第15回：最終課題			
テキスト			
授業開始時に配付する			
参考書・参考資料等			
授業開始時に指示する			
学生に対する評価			
各回の授業課題30%、中間課題30%、最終課題40%として評価する。全ての課題を提出することが単位認定の必要条件である			

授業科目名： 確率論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川 貴之/満倉 英一
		担当形態：クラス分け・単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標				
確率論のうち、確率変数や確率分布の理解、および、平均、分散、相関係数などの統計量の計算方法を習得する。さらに、確率を用いる数理モデルやデータ分析への応用例を学ぶことで、確率論が情報社会にもたらした貢献と現代における確率論の重要性を理解する。				
授業の概要				
確率論のうち、確率変数や確率分布、および各統計量の計算方法と応用例について学ぶ。				
授業計画				
第1回：ガイダンス、基本事項の復習				
第2回：事象と確率				
第3回：条件付き確率とベイズの定理				
第4回：確率変数と確率分布				
第5回：代表的な確率分布				
第6回：期待値と分散				
第7回：共分散、相関係数				
第8回：二項分布				
第9回：正規分布				
第10回： χ^2 分布				
第11回： t 分布				
第12回： F 分布				
第13回：大数の法則と中心極限定理				
第14回：確率を用いる数理モデル・データ分析への応用				
第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト				
適宜プリントを配付する。				
参考書・参考資料等				
確率と統計——から学ぶ数理統計学——（小林正弘他著、共立出版、2021年刊）				
学生に対する評価				
中間試験40％、定期試験50％、授業態度10％				

授業科目名： 統計学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川 貴之/ 佐藤 好幸/満倉 英一
		担当形態：クラス分け・単独		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 統計学のうち、推定の基本的な考え方と具体的な方法を習得する。さらに、データサイエンスや機械学習と統計学との関係を学ぶことで、ビッグデータ時代と言われる現代における統計学の重要性を理解する。				
授業の概要 推測統計の基礎である推定までの基本事項の修得と具体的な計算方法について講義する。				
授業計画 第1回：ガイダンス，基本事項の確認 第2回：母集団・標本 第3回：標本平均と標本分散 第4回：標本分布関数 第5回：正規分布と標本 第6回：点推定 第7回：不偏推定量 第8回：最尤推定量 第9回：区間推定 第10回：仮設検定 第11回：母平均の区間推定 第12回：母分散の区間推定 第13回：母比率の区間推定 第14回：統計学の応用例 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト 適宜プリントを配付する。				
参考書・参考資料等 確率と統計（藤澤洋徳著，朝倉書店，2006年刊）				
学生に対する評価 中間試験40％，定期試験50％，授業態度10％				

授業科目名： 応用統計学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川 貴之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 サンプルデータを用いて、統計的な差の有無や質的データ、および2変数間の関係を分析する方法と、分析の目的に応じた適切な分析方法を選択する方法を習得することで、統計学とデータ分析の関係を理解することで、現代における統計学の重要性を理解する。			
授業の概要 具体的な計算演習を通して、様々な統計的検定の手法とその仕組みについて学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス， 統計的検定の原理と過誤 第2回： F 検定 第3回： t 検定 第4回：分散分析（1要因） 第5回：分散分析（2要因） 第6回：多重比較 第7回：パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 第8回：2項検定 第9回： χ^2 検定 第10回：フィッシャーの直接法 第11回：マン・ホイットニーの検定 第12回：符号付き順位検定 第13回：相関係数に関する検定・推定 第14回：順位相関係数 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 心理学のためのデータ解析テクニカルブック（森敏昭他著，北大路書房，1990年刊）			
学生に対する評価 中間テスト40％，期末試験50％，授業態度10％			

授業科目名： 情報処理論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 朝美/ 浦尾 彰/加藤 央昌/佐藤 好幸 担当形態：クラス分け・単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学) 免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・コンピュータ 免許法施行規則第66条の6に定める科目 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的なコンピュータ操作技術習得を図ると共に、コンピュータの基本構成や原理をはじめ、情報技術に関連する基礎的な知識を身に付ける。				
授業の概要 コンピュータ技術の発展経緯をはじめとして、情報処理に関する最も基礎的な知識ならびに技能の習得を目的とする。具体的には、コンピュータの歴史、情報処理に必要なコンピュータのハードウェアおよびソフトウェア、ネットワークと情報システム、情報システムの構築と維持、情報倫理と情報セキュリティに関する基礎知識の習得、ならびに情報処理機器の基本操作、技法をコンピュータ実習に重点を置きながら習得していく。加えて、近年の情報技術環境の変化に伴う社会活動の変化や今後の動向についても触れていくこととする。				
授業計画 第1回：ガイダンス・コンピュータとその利用 第2回：ビジネスと情報システム 第3回：コンピュータの誕生からネットワーク社会へ1 コンピュータ前史とその変遷 第4回：コンピュータの誕生からネットワーク社会へ2 コンピュータとネットワーク社会 第5回：情報の表現1 情報とメディア／数値データの表現 第6回：情報の表現2 文字・画像・音声データの表現 第7回：ハードウェアの仕組み1 パソコンの解剖／装置の概要 第8回：ハードウェアの仕組み2 計算・記憶のできる仕組み 第9回：ソフトウェアの役割1 ソフトウェアの概要・種類・その役割 第10回：ソフトウェアの役割2 プログラミング／ファイル／データベース 第11回：ネットワークと情報システム 第12回：情報システムの構築と維持 第13回：情報倫理と情報セキュリティ1 情報倫理／知的財産権と個人情報／セキュリティ 第14回：情報倫理と情報セキュリティ2 情報システムの信頼性・安全性／豊かな情報社会の実現のために 第15回：まとめ				
テキスト コンピュータ概論—情報システム入門— (第8版) (魚田勝臣(他)著 共立出版)				
参考書・参考資料等 必要に応じて、授業内にて指示する。				
学生に対する評価 平常点(3割：毎回授業後に提出するリアクションペーパーの内容)、遠隔講義回のレポートの内容(3割)、まとめて実施するテスト(4割：持ち込み不可)から総合的に評価する。各課題の採点結果は提示しないが、レポートや試験は適宜解説を行うので各自で確認する。初回授業時に評価基準を明示する。				

授業科目名： 情報数学 I		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川 貴之 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 情報数学のうち、 r 進法、命題と論理、集合について、基本事項を習得する。さらに、プログラムやコンピュータの内部表現について学ぶことで、数学が情報分野に与える貢献や重要性を理解する。				
授業の概要 情報数学の基礎である r 進数、集合と論理に関する事項の修得と具体的な応用例について講義する。				
授業計画 第1回：ガイダンス、基本事項の確認 第2回：指数と対数、数学とコンピュータ 第3回：10進法と r 進法 第4回：2進法、8進法、16進法 第5回：2進法の加算・減算 第6回：小数と r 進法、ビットとバイト 第7回：命題と真理値、プログラムと命題論理 第8回：ド・モルガンの定理 第9回：必要条件・十分条件・必要十分条件と逆・裏・対偶 第10回：命題の証明と背理法 第11回：ブール代数 第12回：集合の基礎 第13回：集合の包含関係と演算 第14回：ド・モルガンの定理（集合） 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト 適宜プリントを配付する。				
参考書・参考資料等 情報数学の基礎 第2版（幸谷智紀・國持良行著，森北出版，2020年刊）				
学生に対する評価 中間試験40％，定期試験50％，授業態度10％				

授業科目名： 情報数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川 貴之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 情報数学のうち、写像とグラフについて、基本事項を習得する。さらに、アルゴリズムやコンピュータの内部表現、代数学との関係について学ぶことで、数学が情報分野に与える貢献や重要性を理解する。			
授業の概要 情報数学の基礎である写像、関係、グラフに関する事項の修得と具体的な応用例について講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、基本事項の確認 第2回：関数と写像 第3回：様々な写像 第4回：写像の合成、置換、プログラムにおける関数 第5回：関係と順序対 第6回：2項関係と写像、グラフ表現 第7回：同値関係、n項関係とデータベース 第8回：述語と集合、数学的帰納法 第9回：ハノイの塔、数学的帰納法と関数の再帰呼び出し 第10回：グラフの基本事項 第11回：グラフと一筆書き問題、 第12回：二分木とヒープソート 第13回：グラフと隣接行列 第14回：コンピュータ内部の小数表現 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 情報数学の基礎 第2版（幸谷智紀・國持良行著、森北出版、2020年刊）			
学生に対する評価 中間試験40％、定期試験50％、授業態度10％			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：佐藤 好幸
データサイエンス基礎演習	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 ・ Pythonの基本的な使用法を習得する。 ・ データ分析の基礎的手法を理解する。 ・ Pythonを用いて基礎的なデータ分析を自ら行うことができるようになる。			
授業の概要 データサイエンスを活用することで、様々なデータから新たな価値を創造することができるようになる。取得したデータを柔軟に取り扱うためにはプログラミングが不可欠であり、データサイエンスの分野においてはPythonが広く用いられるプログラミング言語の1つである。本授業では、Python言語について学ぶとともに、データサイエンスの基盤となる統計学の基礎として、データをまとめ、可視化する手法や、統計分析手法などを学ぶ。それにより、Pythonを活用して実際にデータを分析するための基礎を習得する。			
授業計画 第1回：Pythonによるデータ分析の環境構築 第2回：Pythonの基礎1：文法構造、変数と定数、変数への代入、四則演算 第3回：Pythonの基礎2：繰り返し、条件分岐、リスト 第4回：データサイエンスのためのPython 1： Numpyを用いた数値計算 第5回：データサイエンスのためのPython 2： Pandasを用いたデータ処理 第6回：データの取得と前処理 第7回：データの集計：度数分布とヒストグラム 第8回：記述統計：データの代表値とばらつき 第9回：データの可視化：棒グラフ、折れ線グラフ、箱ひげ図、パイオリンプロットなど 第10回：多次元データ分析：散布図、相関分析 第11回：確率計算とモンテカルロ法：データの確率的ふるまい 第12回：統計的推定：データから推定する 第13回：統計的検定：データから検証する 第14回：回帰分析：データから予測する 第15回：まとめ			
テキスト 特に指定しない。必要に応じて参考資料を配付する。			
参考書・参考資料等 ・ Python言語の参考資料 詳細！Python 3 入門ノート（大重美幸 著，ソーテック社） スッキリわかるPython入門（国本大悟，須藤秋良 著，インプレス） ・ 統計学の参考資料 文系のための統計学教室（涌井良幸，涌井貞美 著，SBクリエイティブ社） ・ Pythonを用いた統計分析の参考資料 Python2年生 データ分析のしくみ（森巧尚 著，翔泳社）：図解豊富で比較的平易な内容の教科書。 Pythonで学ぶあたらしい統計学の教科書（馬場真哉 著，翔泳社）：より詳細で広範な内容をカバーしている教科書。			
学生に対する評価 以下を総合して評価を行う。 ・ 平常点 20%：リアクションペーパーの提出および授業態度 ・ レポート80%：中間レポートと最終レポートの2回レポートを課す ・ リアクションペーパーについては授業内で解説・公表・質問対応等を行う。 ・ レポートは採点后に点数を開示する。			

授業科目名： AIプログラミング演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 朝美/ 浦尾 彰/加藤 央昌
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 Pythonによるプログラミングの基本文法を理解し、プログラム開発やアルゴリズムの実装、データ処理のスキルを身に付ける。さらに、人工知能分野におけるプログラミングの重要性を理解する。			
授業の概要 演習を通して、Pythonプログラミングの基礎と人工知能分野への応用について学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス、Pythonプログラミングの基礎 第2回：変数・データ型、演算子 第3回：選択構造：if文 第4回：反復構造：while文，for文 第5回：データ構造と配列 第6回：アルゴリズム（1）線形探索 第7回：アルゴリズム（2）2分探索 第8回：アルゴリズム（3）スタックとキュー 第9回：アルゴリズム（4）再帰 第10回：アルゴリズム（5）ソート 第11回：機械学習（1）機械学習の基礎 第12回：機械学習（2）ヒストグラムと散布図 第13回：機械学習（3）データの高度な取り扱い 第14回：機械学習（4）教師あり学習と教師なし学習 第15回：機械学習（5）線形回帰 定期試験			
テキスト 適宜プリントを配付する。			
参考書・参考資料等 やさしいPython（高橋麻奈著，SBクリエイティブ，2018年刊）			
学生に対する評価 中間試験40％，定期試験50％，授業態度10％			

授業科目名： 数学科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 必修科目（高等学校）	単位数： 2 単位	担当教員名： 山田 知子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （１）中学校数学科と高等学校数学科の目標・課題と内容の基礎・背景について理解する。 （２）数学的活動を充実させる模擬授業の授業設計と振り返りを通して実践的技能を身に付ける。 （３）数学的活動の各過程での ICT を活用した授業を計画する。			
授業の概要 中学校と高等学校の数学科教員として指導を行うことができる能力を育成するために、学習指導要領をもとに、数学教育の目標・課題及び指導内容に関する知識を身に付け実践で生かせるようになることを目的とする。また、数学的活動の充実と数学的活動をテーマとした模擬授業の実践を通して指導技能の向上を図る。			
授業計画 第 1 回： 中学校数学科と高等学校数学科の目標と課題 第 2 回： 代数領域の学習指導内容の基礎・発展と背景（１）数とその拡張 第 3 回： 代数領域の学習指導内容の基礎・発展と背景（２）文字式と整数の性質 第 4 回： 幾何領域の学習指導内容の基礎・発展と背景（１）基本作図と図形の性質，立体図形と空間認識 第 5 回： 幾何領域の学習指導内容の基礎・発展と背景（２）図形と論証 第 6 回： 解析領域の学習指導内容の基礎・発展と背景（１）関数の考え 第 7 回： 解析領域の学習指導内容の基礎・発展と背景（２）様々な関数 第 8 回： 確率・統計領域の学習指導内容の基礎 データの活用 第 9 回： 中学校数学科と高等学校数学科の授業設計と評価および学習指導案の作成方法 第 10 回： 数学的活動の充実①（導入から展開の工夫の方法）（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第 11 回： 数学的活動の充実②（展開から終末の工夫の方法）（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第 12 回： 模擬授業①の実施と振り返り テーマ：ア日常の事象を数理的に捉え解決したり考察したりする活動 第 13 回： 模擬授業②の実施と振り返り テーマ：イ数学の事象から問題を見だし解決したり考察したりする活動 第 14 回： 模擬授業③の実施と振り返り テーマ：ウ数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合う活動 第 15 回： 模擬授業④の実施と振り返り テーマ：数学的活動アイウのいずれかでの ICT の効果的な活用 定期試験			
テキスト 新しい数学教育の理論と実践（岩崎秀樹・溝口達也，ミネルヴァ書房，2019）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編(平成 29 年 7 月 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 数学編 理数編(平成 30 年 7 月 文部科学省)			
学生に対する評価 授業中に出された課題への回答内容(30%)，模擬授業に対する姿勢と学習指導案（40%），定期試験(30%)により，総合的に評価する。			

授業科目名： 数学科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2 単位	担当教員名： 山田 知子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （１）中学校数学科の各学年の目標と内容について理解する。 （２）数学科授業の指導方法と授業設計について、模擬授業等を通して実践的技能を身に付ける。 （３）ICT を活用した数学科授業を計画する。			
授業の概要 中学校の数学科教員として指導を行うことができる能力を育成するために、中学校学習指導要領をもとに数学科の目標・内容及び指導方法に関する知識を身に付け、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して指導技能の向上を図る。			
授業計画 第 1 回： 中学校数学科の目標と内容 第 2 回： 小学校算数科と中学校数学科の関連および中学校数学科における数学的活動と評価 第 3 回： 領域 A 「数と式」の指導上の問題点と教材研究 第 4 回： 領域 A 「数と式」の授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第 5 回： 領域 B 「図形」の指導上の問題点と教材研究 第 6 回： 領域 B 「図形」の授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第 7 回： 領域 C 「関数」の指導上の問題点と教材研究 第 8 回： 領域 C 「関数」の授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第 9 回： 領域 D 「データの活用」の指導上の問題点と教材研究 第 10 回： 領域 D 「データの活用」の授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第 11 回： 模擬授業①の実施と振り返り 領域 A 「数と式」 第 12 回： 模擬授業②の実施と振り返り 領域 B 「図形」 第 13 回： 模擬授業③の実施と振り返り 領域 C 「関数」 第 14 回： 模擬授業④の実施と振り返り 領域 A 「データの活用」 第 15 回： 発展的な学習内容の探究の位置づけと ICT の効果的な活用 定期試験			
テキスト 新しい数学教育の理論と実践（岩崎秀樹・溝口達也，ミネルヴァ書房，2019）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編(平成 29 年 7 月 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 数学編 理数編(平成 30 年 7 月 文部科学省)			
学生に対する評価 授業中に出された課題への回答内容(30%)，模擬授業に対する姿勢と学習指導案（40%），定期試験(30%)により，総合的に評価する。			

授業科目名： 数学科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2 単位	担当教員名： 山田 知子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （１）中学校数学科の目標について、評価の観点や評価方法について理解する。 （２）数学科授業の指導と評価を一体化させた学習指導について、単元計画の作成と模擬授業を通して実践的に理解する。 （３）１人１台のタブレット PC 環境をふまえ ICT を効果的に活用した数学科授業を計画する。			
授業の概要 数学科教育法Ⅰで学んだ内容をもとに、さらに発展させた学修につなげていく。全国・学力学習状況調査から数学科での評価や評価方法について考え、それらをもとに単元全体の学習を見通した指導・評価計画を作成する。また、１人１台のタブレット PC 環境での効果的な評価方法を理解し、模擬授業の実践を通して指導技能の向上を図る。			
授業計画 第１回： 全国・学力学習状況調査と数学科の評価①実際に解いてみる 第２回： 全国・学力学習状況調査と数学科の評価②結果から見えること 第３回： 数学科の評価方法について①内容と単元での評価 第４回： 数学科の評価方法について②授業前・授業中・授業後の評価 第５回： 単元の指導計画と目標・評価の作成演習 第６回： １人１台のタブレット PC 環境での授業設計と評価①導入から展開の工夫 第７回： １人１台のタブレット PC 環境での授業設計と評価②展開から終末の工夫 第８回： 指導と評価を一体化させた学習指導案の作成①（領域 A「数と式」）（単元の中の１時間分） 第９回： 指導と評価を一体化させた学習指導案の作成②（領域 B「図形」）（単元の中の１時間分） 第１０回： 指導と評価を一体化させた学習指導案の作成③（領域 C「関数」）（単元の中の１時間分） 第１１回： 指導と評価を一体化させた学習指導案の作成④（領域 D「データの活用」）（単元の中の１時間分） 第１２回： 模擬授業①の実施と振り返り テーマ：知識・技能の評価 第１３回： 模擬授業②の実施と振り返り テーマ：思考力・判断力・表現力の評価 第１４回： 模擬授業③の実施と振り返り テーマ：主体的に学ぶ態度の評価 第１５回： 模擬授業④の実施と振り返り テーマ：指導と評価の計画から評価の総括まで 定期試験			
テキスト 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校数学科 国立教育政策研究所）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編(平成 29 年 7 月 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 数学編 理数編(平成 30 年 7 月 文部科学省)			
学生に対する評価 授業中に出された課題への回答内容(30%)，模擬授業に対する姿勢と学習指導案（40%），定期試験(30%)により，総合的に評価する。			

授業科目名： 数学科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 必修科目（高等学校）	単位数： 2 単位	担当教員名： 山田 知子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 （１）高等学校数学科の各学年の目標と内容について理解する。 （２）数学科授業の指導方法と授業設計について、模擬授業等を通して実践的技能を身に付ける。 （３）ICT を活用した数学科授業を計画する。			
授業の概要 高等学校の数学科教員として指導を行うことができる能力を育成するために、高等学校学習指導要領をもとに数学科の目標・内容及び指導方法に関する知識を身に付け、学習指導案の作成と模擬授業の実践を通して指導技能の向上を図る。			
授業計画 第１回： 高等学校数学科の目標と内容 第２回： 高等学校数学科における授業設計と評価および学習指導案の作成方法 第３回： 数学Ⅰの指導上の問題点と教材研究 第４回： 数学Ⅰの授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第５回： 数学Ａの指導上の問題点と教材研究 第６回： 数学Ａの授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第７回： 数学Ⅱ，Ｂの指導上の問題点と教材研究 第８回： 数学Ⅱ，Ｂの授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第９回： 数学Ⅲ，Ｃの指導上の問題点と教材研究 第１０回： 数学Ⅲ，Ｃの授業設計（情報通信技術及び教材の効果的な活用法を含む） 第１１回： 模擬授業①の実施と振り返り 数学Ⅰの題材 第１２回： 模擬授業②の実施と振り返り 数学Ａの題材 第１３回： 模擬授業③の実施と振り返り 数学Ⅱ，Ｂの題材 第１４回： 模擬授業④の実施と振り返り 数学Ⅲ，Ｃの題材 第１５回： 発展的な学習内容の探究の位置づけと ICT の効果的な活用 定期試験			
テキスト 新しい数学教育の理論と実践（岩崎秀樹・溝口達也，ミネルヴァ書房，2019）			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 数学編(平成 29 年 7 月 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 数学編 理数編(平成 30 年 7 月 文部科学省)			
学生に対する評価 授業中に出された課題への回答内容(30%)，模擬授業に対する姿勢と学習指導案（40%），定期試験(30%) により，総合的に評価する。			

大学が独自に設定する科目：シラバス

授業科目名： 教職インターンシップⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 澤田 喜之/梅藤 仁志/小川 裕之/ 山田 知子/市来 ちさ 担当形態：クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校教育についての理解を深め、教育現場で求められている実践的指導力を養成する。			
授業の概要 事前に学校現場についての指導を受け、活動先に赴き計画書を作成する。活動開始後は毎週の授業ごとに担当教員に日報を提出するとともに、活動内容における課題を学生相互に検討し、年次の終わりに報告書を提出する。修得した成果と課題については、総括発表会を行い、学修を深める。			
授業計画 第1回：事前指導：「教職インターンシップ」の意義と概要 第2回：事前指導：教員のモラル、心構え 第3回：事前指導：学校が抱える問題 第4回：事前指導：学校現場でのマナー 第5回：事前指導：体験活動先の探し方、依頼の仕方 第6回：事前指導：打ち合わせ、役割の確認 第7回：事前指導：計画書作成にあたっての留意点 第8回：事前指導：日報作成にあたっての留意点 第9回：学校現場の1年の流れ 第10回：学校現場の1日の流れ 第11回：学期ごとの役割 第12回：個人情報の扱い 第13回：保護者や地域との関わり 第14回：発達障害をもつ生徒との関わり方 第15回：職員朝礼 第16回：登下校指導 第17回：授業準備 第18回：午前の授業補助 第19回：給食指導 第20回：清掃指導 第21回：午後の授業補助 第22回：休み時間の児童生徒対応 第23回：学級活動 第24回：学校行事（学内） 第25回：学校行事（学外） 第26回：定期テスト前後 第27回：特別支援学級 第28回：部活動指導 第29回：報告書作成にあたっての留意点 第30回：総括			
テキスト 教職インターンシップⅠ・Ⅱの手引き（授業内で配付する。）			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 ・計画書・日報・報告書の記載内容から総合的に判定する。成績は「合」「否」により評価する。 ・授業内で個別指導を行い、講評・質問対応する。			

大学が独自に設定する科目：シラバス

授業科目名： 教職インターンシップⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4単位	担当教員名： 澤田 喜之/梅藤 仁志/小川 裕之/ 山田 知子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 前年度に学んだ内容と課題をもとに、学校教育についての理解を深化させるとともに、教育現場で求められている不断の自己更新力と協働を生み出す対人能力を養成する。			
授業の概要 事前に学校現場についての指導を受け、活動先に赴き計画書を作成する。活動開始後は毎週の授業ごとに担当教員に日報を提出するとともに、活動内容における課題を学生相互に検討し、年次の終わりに報告書を提出する。修得した成果と課題については、総括発表会を行い、学修を深める。また、「教職インターンシップⅠ」の内容を踏まえ、学校教育、教育現場で必要な実践的指導力に対する理解を深める。			
授業計画 第1回：事前指導：「教職インターンシップ」の意義と概要 第2回：事前指導：教員のモラル、心構え 第3回：事前指導：学校が抱える問題 第4回：事前指導：学校現場でのマナー 第5回：事前指導：体験活動先の探し方、依頼の仕方 第6回：事前指導：打ち合わせ、役割の確認 第7回：事前指導：計画書作成にあたっての留意点 第8回：事前指導：日報作成にあたっての留意点 第9回：学校現場の1年の流れ 第10回：学校現場の1日の流れ 第11回：学期ごとの役割 第12回：個人情報の扱い 第13回：保護者や地域との関わり 第14回：発達障害をもつ生徒との関わり方 第15回：職員朝礼 第16回：登下校指導 第17回：授業準備 第18回：午前の授業補助 第19回：給食指導 第20回：清掃指導 第21回：午後の授業補助 第22回：休み時間の児童生徒対応 第23回：学級活動 第24回：学校行事（学内） 第25回：学校行事（学外） 第26回：定期テスト前後 第27回：特別支援学級 第28回：部活動指導 第29回：報告書作成にあたっての留意点 第30回：総括			
テキスト 教職インターンシップⅠ・Ⅱの手引き（授業内で配付する。）			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 ・計画書・日報・報告書の記載内容から総合的に判定する。成績は「合」「否」により評価する。 ・授業内で個別指導を行い、講評・質問対応する。			

大学が独自に設定する科目：シラバス

授業科目名： 情報モラル教育		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神田 久恵
				担当形態：単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 学校教育における情報化の実態と情報モラル教育の必要性をテーマとし、情報モラル教育に必要な知識を身につけ、指導方法や学校と家庭・地域社会との連携のあり方等について、具体的・実践的に追究する。				
授業の概要 情報教育や授業におけるICT活用など、学校教育における情報化の実態を明らかにするとともに、情報モラル教育の必要性に対する認識を深める。情報モラル教育における具体的指導方法、教員が身につけるべき知識などを取り上げ、最終的には学校と家庭・地域社会との連携のあり方にまで踏み込み、公共的なネットワーク社会の構築に寄与貢献できるような学校における情報モラル教育の方法を追究する。				
授業計画 第1回：情報社会の特性と生徒のSNS利用の実態、情報社会の倫理 第2回：学校教育における情報化の実態と課題、生徒を取り巻くICTの現状 第3回：法の理解と遵守、情報モラル教育の必要性 第4回：情報セキュリティ、安全への知恵 第5回：情報モラル教育の進め方 第6回：情報モラル指導モデルカリキュラム 第7回：教材と情報モラル指導、モデルカリキュラムや教科等との関連 第8回：情報モラル指導、モデル教材 第9回：教員に求められる情報モラル教育に係る知識 第10回：情報モラル教育における地域社会との連携 第11回：情報モラル教育における家庭との連携 第12回：学校・地域社会・家庭による情報の共有 第13回：情報モラル教育の各教科等における指導例 第14回：公共的なネットワーク社会の構築に向けた課題と対応策 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト 授業時にレジュメおよび資料を配付する。				
参考書・参考資料等 必要に応じて、授業内にて指示する。				
学生に対する評価 小テスト（25％）、レポート（25％）、および試験（50％：持ち込み不可）によって総合的に評価する。 小テストやレポート等については、授業内で解説・質問対応を行う。				

大学が独自に設定する科目：シラバス

授業科目名： 道徳指導法	【中学】教員の免許状取得 のための必修科目 【高校】教員の免許状取得 のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 章夫/柴田 八重子/ 山田 真紀 担当形態：クラス分け・単独
科 目	【中学】道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 【高校】大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	【中学】道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ 道徳教育の必要性を理解するとともに、将来教育現場で「特別の教科道徳科」の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することを目指す。併せて教育実習で「道徳科」の指導が適切に行えるようにする。			
授業の概要 わが国の道徳教育の基盤である義務教育における道徳指導の在り方を探求する。その中で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。			
授業計画 第1回：道徳の本質・道徳教育の現状と課題 第2回：学習指導要領の基本方針 第3回：道徳教育の歴史（1）西洋世界の道徳観 第4回：道徳教育の歴史（2）日本の道徳思想 第5回：道徳性の発達と大人の役割 第6回：道徳教育の目標 第7回：道徳教育の計画 第8回：道徳教育の内容 第9回：道徳教育の教材 第10回：「特別の教科道徳科」の特性 第11回：「特別の教科道徳科」の指導法と評価 第12回：道徳科指導案の実践・教材研究の方法 第13回：道徳科授業の指導上のポイント 第14回：道徳科授業の指導案作成・資料作成 第15回：道徳科授業の実践演習・研究協議と振り返り 定期試験			
テキスト 授業時に適宜必要な資料等を配布する。 中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（文部科学省・最新版）等			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領 特別の教科道徳編（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（文部科学省・最新版）			
学生に対する評価 ・期末試験（持ち込み不可）（50%）、レポート（30%）、毎時間の受講カードの記述内容（20%）などを総合して評価する。 ・レポートや受講カードについては、授業内で講評・質問対応等を行う。			

シラバス：66条の6に関する科目

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西尾 林太郎 他 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 ① 日本国憲法に関する基本的概念・知識を理解する。 ② 現代社会の諸問題を憲法の視点から理解する。 ③ 現実を踏まえた論理的かつ合理的な法的思考力を養う。			
授業の概要 法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明するとともに、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにする。			
授業計画 第1回：近代憲法とはなにか 第2回：近代国家と憲法—明治憲法との比較 第3回：我が国における人権思想と憲法 第4回：日本国憲法制定の経緯 第5回：国民主権と象徴天皇 第6回：基本的人権とはなにか 第7回：精神的自由権 第8回：信教の自由と政教分離 第9回：経済的自由権 第10回：公共の福祉 第11回：社会権 第12回：権力分立—国会と内閣— 第13回：司法の独立—裁判所— 第14回：地方自治と平和主義 第15回：補充とまとめ			
定期試験			
テキスト 概説 デモクラシーと国家（初谷良彦、石上泰洲他 成文堂）			
参考書・参考資料等 松井茂記『日本国憲法』（有斐閣） 芦部信喜『憲法学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（有斐閣） 堀真清編『原典で読む日本デモクラシー論集』岩波書店 初谷良彦『憲法講義Ⅰ』（成文堂）			
学生に対する評価 成績評価（何回かの小試験30％、期末試験70％いずれも講義で学んだ基礎知識と思考力を問う）			

シラバス：66条の6に関する科目

授業科目名： スポーツ科学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 門間 博 他
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践を通して運動の基礎的技術を習得し、スポーツ実践の大切さの認識とスポーツを楽しむ能力をつかむことを目指す。			
授業の概要 スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：体力診断テスト①（持久力テストを除く項目の測定） 第3回：体力診断テスト②（持久力テスト） 第4回：コーディネーション・トレーニング（基礎）ノルディック・ウォーキング 第5回：コーディネーション・トレーニング（応用）ポール・ウォーキング 第6回：バドミントン ラケットとシャトルのコントロール 第7回：バドミントン ルールとマナーを身につける 第8回：バドミントン ミニゲーム 第9回：バドミントン ゲーム①（シングルゲーム） 第10回：バドミントン ゲーム②（ダブルスゲーム）スキルテスト 第11回：バスケットボール ボールに慣れる 基本練習（個人） 第12回：バスケットボール 基本練習（チーム） 第13回：バスケットボール ルールとマナーを身につける 第14回：バスケットボール ゲーム スキルテスト 第15回：総括			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 必要に応じて、資料を配付する。			
学生に対する評価 授業の理解度・参加態度60点（積極性20点、協調性20点、安全面への配慮20点）、種目技能テスト（20点）、ルールの理解度（20点）の配点で評価する。 ルールや技術的な内容などで不明な点は授業内で説明、指導する。また、技能テストはその場で結果について明示する。			

シラバス：66条の6に関する科目

授業科目名： 健康と運動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 門間 博 他
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
授業のテーマ及び到達目標 健康の保持増進への理解を深め、運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通じて、運動不足による体力の低下を予防する。 クオリティーオブライフの向上に向けて、運動を行う楽しさや心地よさを体感しながら、健康増進や体力向上について考える。			
授業の概要 現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：バレーボール 基礎練習 オーバー、アンダーパス、スパイクに対するレシーブ技術 第3回：バレーボール 基礎練習 オーバー、アンダーパス、サーブに対するレシーブ技術 第4回：バレーボール 基礎練習 スパイク（オープン攻撃）、サーブの種類 第5回：バレーボール 基礎練習 スパイク（A・Bクイック、時間差）、サーブ、ゲーム 第6回：バレーボール 基礎練習 ブロッキング、サーブ、ゲーム 第7回：バレーボール 応用練習 フォーメーション1、サーブレシーブに対する1・5システム 第8回：バレーボール 応用練習 フォーメーション2、サーブレシーブに対する0・6システム 第9回：バレーボール 審判法・ゲーム 第10回：バレーボール 応用練習 スパイクのストレート・クロスの打ち分け方、ゲーム 第11回：バレーボール 応用練習 ブロッキングの移動方法、ゲーム 第12回：バレーボール 応用練習 スパイクに対するレシーブフォーメーション、ゲーム 第13回：バレーボール 応用練習 サーブの種類（カーブ、シュート、変化球、ジャンピンググ）、ゲーム 第14回：バレーボール 応用練習 レシーブを上手にする方法とパスの応用（正面・横・後方向）、ゲーム 第15回：バレーボール まとめ・ゲーム（リーグ制）			
テキスト 使用しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じて、資料を配付する。			
学生に対する評価 授業の理解度・参加態度60点（積極性20点、協調性20点、安全面への配慮20点）、種目技能テスト（20点）、ルールの理解度（20点）の配点で評価する。 ルールや技術的な内容などで不明な点は授業内で説明、指導する。また、技能テストはその場で結果について明示する。			

シラバス：66条の6に関する科目

授業科目名： English 4 (Speaking1)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： ARRIETA Lovely 他 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語ネイティブ・スピーカーの教員や受講生とのコミュニケーションを通じて、自分の考えを英語で伝えるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 TOEICスコア400点以上の取得者、あるいは「English 1 (Listening)」か「English 2 (Reading)」のいずれかの単位を修得している者を対象とする。TOEICの会話問題で使用されるトピックなどを使って、実用的な英会話のスキルを身に付ける。			
授業計画 第1回：授業計画等の説明 第2回：自己紹介 第3回：趣味 第4回：娯楽 第5回：観光 第6回：ショッピング 第7回：スポーツ 第8回：前半（第2回～第7回）のまとめと復習 第9回：旅行での会話（1）空港 第10回：旅行での会話（2）ホテル 第11回：旅行での会話（3）レストラン 第12回：電話での応対 第13回：職場でのやり取り（1）ミーティング 第14回：職場でのやり取り（2）プレゼンテーション 第15回：後半（第9回～第14回）のまとめと復習 定期試験 テキスト 担当教員によって異なるので、掲示や配布物で確認すること。			
参考書・参考資料等 適宜指示する。			
学生に対する評価 宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動35%、テスト40%（持ち込み不可）テストの解答はテスト終了後に確認をし、採点結果は希望者に開示する。			

シラバス：66条の6に関する科目

授業科目名： English 6 (Speaking2)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： LEAF David H. 他 担当形態：クラス分け・単独
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 英語ネイティブ・スピーカーの教員や受講生とのコミュニケーションを通じて、自分の考えを英語で伝えるための、より高度な能力を身に付けることを目標とする。			
授業の概要 TOEICスコア400点以上の取得者、あるいは「English 1 (Listening)」か「English 2 (Reading)」のいずれかの単位を修得している者を対象とする。TOEICの会話問題で使用されるトピックなどを使って、実用英会話の応用的な力を身に付ける。			
授業計画 第1回：授業計画等の説明 第2回：自己紹介 第3回：トラブルへの対処（1）旅行 第4回：トラブルへの対処（2）買い物 第5回：トラブルへの対処（3）銀行 第6回：ニュース（1）ビジネス 第7回：ニュース（2）国際関係 第8回：前半（第2回～第7回）のまとめと復習 第9回：天気予報 第10回：テレビやラジオの広告（1）ファッション 第11回：テレビやラジオの広告（2）電化製品 第12回：インタビュー 第13回：スピーチ（1）パーティーでのあいさつ 第14回：スピーチ（2）会議でのプレゼンテーション 第15回：後半（第9回～第14回）のまとめと復習 定期試験 テキスト 担当教員によって異なるので、掲示や配布物で確認すること。			
参考書・参考資料等 適宜指示する。			
学生に対する評価 宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動35%、テスト40%（持ち込み不可） 課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。点数や採点結果は希望者に開示する。			

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育原理		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 佐藤 実芳/渡辺 かよ子/ 三和 義武/小口 功 担当形態：クラス分け・単独	
科 目			教育の基礎的理解に関する科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等			教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				
授業のテーマ及び到達目標							
・ 教職課程を履修し教職を目指すという視点から、学校とは何か、教育とは何かについて考え、教育原理の基本事項について理解する。 ・ 教育に関する様々な思想や実践の叡智を人類史の視点から理解し、現代社会の教育課題を原理的に理解する。							
授業の概要							
学校教育をめくり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿と理念を根源的に理解し検討する必要性が生じている。本講は教育の本質と目的を中心に教育原理を概説する。教育の本質については教育史上代表的な思想を中心に、教育目的に関しては古代から今日に至るまでの変遷を概観すると共に、現代日本の教育についてその目的等を考察する。							
授業計画							
第1回：教育とは何か 第2回：人間と教育：動物学からみた人間の特殊性、人間の成長と環境 第3回：教育の歴史と教育思想（1）：近代以前の子どもの生活と東西の伝統的教育思想、コメニウス等 第4回：教育の歴史と教育思想（2）：近代以降の子どもの生活と「子どもの誕生」（ルソー、デューイ、新教育運動等） 第5回：教育の歴史と教育思想（3）：現代の教育理念と教育の重要性 第6回：教育の理念と学校の目的（1）：制度の中に生きる人間 第7回：教育の理念と学校の目的（2）：日本の学校教育の目的の変遷と課題 第8回：教育の理念と内容・方法（1）：注入主義 第9回：教育の理念と内容・方法（2）：開発主義 第10回：人間形成と教育（1）：学校と家庭教育 第11回：人間形成と教育（2）：学校と社会教育・生涯学習 第12回：現代の教育（1）：学力問題 第13回：現代の教育（2）：人権と教育 第14回：現代の教育（3）：生涯発達と教育 第15回：まとめ：人間にとっての教育の重要性							
定期試験							
テキスト							
資料を配付する。							
参考書・参考資料等							
授業時に適宜紹介する。							
学生に対する評価							
リアクションペーパー（10％）、課題（40％）、定期試験（50％、持ち込み不可）。リアクションペーパーと課題については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。							

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育思想史		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西脇 明美
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標				
西洋並びに東洋の代表的な教育思想家および各時代の教育思潮が現代の教育にどのような影響を及ぼしたかを知ることによって、現代の教育における思想的基盤に対する認識と理解を深めることを目標とする。				
授業の概要				
教育は人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴を反映し、多様な理論を展開してきた。				
この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような教育思想を時代と関わらせながら順に辿りつつ、特に現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。				
その際、それらの思想について、他人の解釈や解説を聴くことも必要であろうが、むしろそれらの思想と直接に対峙することがより大切である。初めて学ぶ学生にとっては、先ずその思想家の著書に直接触れ、考え方などについて読み深めることが肝要と思われる。				
授業計画				
第1回：教育思想史を学ぶことの意義				
第2回：古代ギリシャ・ローマの教育思想				
第3回：キリスト教の教育思想				
第4回：古代中国・インドの教育思想				
第5回：中世・近世ヨーロッパの教育思想				
第6回：ルソー				
第7回：ペスタロッチ、ヘルバルト、フレーベル				
第8回：新教育運動				
第9回：デューイ				
第10回：マルクス主義と教育				
第11回：実存主義と教育				
第12回：古代・中世日本の教育思想				
第13回：近世日本の教育思想				
第14回：近代（明治・大正）日本の教育思想				
第15回：現代の新しい教育思想と教育実践				
定期試験				
テキスト				
使用せず。事前に講義資料を配付する。				
参考書・参考資料等				
参考文献は授業中に適宜紹介する。				
学生に対する評価				
・リアクションペーパー（20%）、レポート（50%）、定期試験（30%、ノート等持ち込み可）				
・課題（レポート、質問、感想等）については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教職入門		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤田 喜之/内木 晃/ 武藤 洋子
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。				
授業の概要 「教える」とはどういうことか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかについて、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。さらに、職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校教育が抱える諸課題について、その問題解決の方途を中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにする。				
授業計画 第1回：教職とは何かー教員の存在意義と役割ー 第2回：近代学校の歴史と変遷（欧米を中心に） 第3回：近代学校の歴史と変遷（日本を中心に） 第4回：近代学校教育の課題 第5回：学習指導要領と教育課程 第6回：教師をめぐる法律（日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則など） 第7回：教師に求められる資質能力とは何か（いつの時代にも求められる資質能力） 第8回：教師に求められる資質能力とは何か（カウンセリング・マインド） 第9回：学校を取り巻く諸問題 ①ーいじめについての取り組み方 第10回：学校を取り巻く諸問題 ②ー家庭、地域との連携 第11回：教師の服務及び身分保障 第12回：教師の職種・職務 第13回：教師の専門性と職務・研修と他校及び専門機関との連携、情報交換の仕方 第14回：教員の一日・一学期・一年の仕事と教員チームの一員としての活動 第15回：今日的教育問題をテーマにグループ討論 定期試験				
テキスト 教職入門（愛知淑徳大学 教職・司書・学芸員教育センター編）（授業時に配付する）				
参考書・参考資料等 授業時に参考文献を紹介するとともに資料プリントを配付する。				
学生に対する評価 ・授業への取り組み姿勢（20％）、課題の内容（30％）、定期試験（50％）などにより、総合的に評価する。 ・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 ・点数や採点結果は希望者に開示する。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育制度		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 実芳/三和 義武/中嶋 哲彦
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
・教育制度の基本的な事項について理解する。 ・教育行政について理解する。 ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解する。 ・現代の学校教育に関する社会的、制度的、経営的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。 ・学校と地域の連携及び学校安全への対応について理解する。				
授業の概要				
社会の変化に伴う学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校制度の類型的比較と外国と日本の学校教育制度の変遷から、学校教育制度の基礎的な事項を理解する。さらに、学校教育制度及び教育行政制度等に関する現在の日本の教育法規を取り上げ、日本の教育制度の仕組みや特徴等について学習する。 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。				
授業計画				
第1回：教育制度の意義 ～公教育の原理と理念～ 第2回：現代学校教育制度（1）：大学 第3回：現代学校教育制度（2）：中等学校 第4回：現代学校教育制度（3）：初等学校 第5回：学校教育制度の類型 第6回：日本の学校教育制度の変遷（1）：明治～昭和 第7回：日本の学校教育制度の変遷（2）：現状と課題 第8回：現在の日本の学校教育制度と教育行政制度 第9回：教育法規（1）：日本国憲法・教育基本法 第10回：教育法規（2）：学校教育法・学校教育法施行令・学校教育法施行規則他 第11回：教育法規（3）：地方教育行政の組織及び運営に関する法律他 第12回：諸外国の学校教育制度：ドイツ・フランス・アメリカ・イギリス 第13回：学校の安全「生活安全」、「交通安全」、「災害安全」 第14回：学校と地域との連携 第15回：まとめ				
定期試験				
テキスト				
自作資料を使用する。				
参考書・参考資料等				
授業時に必要に応じて紹介する。				
学生に対する評価				
リアクションペーパー（20%）、定期試験（80%：持ち込み不可） リアクションペーパーについては、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 学級経営		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 市来 ちさ
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。				
授業の概要 学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいのか、どのようにして生徒の信頼を回復するのかについて探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めていきたい。				
授業計画 第1回：「学級経営とは何か」あるいは学級経営論の概要 第2回：「学級担任としての資質」の事例研究 第3回：「中学校の学級担任の仕事内容」の事例研究 第4回：「高校の学級担任の仕事内容」の事例研究 第5回：「生徒理解と学級担任の役割」の事例研究 第6回：「学校経営と学級経営の連携」の事例研究 第7回：「中学校の生活規律」指導の在り方 第8回：「中学校の学習規律・学習方法」指導の在り方 第9回：「学級担任としての言葉遣い」による人間教育の在り方 第10回：「いじめ指導」への対応と処置の仕方 第11回：「不登校指導」への対応と処置の仕方 第12回：カルテの記録化による記録の累積化の事例研究 第13回：学習環境としての教室環境の事例研究 第14回：専門機関との連携による問題解決の事例 第15回：小・中・高の学級経営の共通点と相違点 定期試験				
テキスト 「学級づくりの力をきたえる」（黎明書房 前田勝洋著）をテキストとして使用する。				
参考書・参考資料等 ・（総則編）中学校学習指導要領解説 ・（総則編）高等学校学習指導要領解説 ・生徒指導提要				
学生に対する評価 ・定期考査（3割：持込不可）・60分でテストを行い、30分で解説をする。必要に応じ個別で対応する。 ・授業に対する取り組み姿勢（発言内容・回数等（3割）・具体的な事例を研究する中で、グループでの話し合いでの貢献度、指導性等について5段階で評価する。グループは毎回異なる。「学級開き」について3分程度のスピーチをさせる。受講生全員と担当者の評価を本人に渡す。発表態度、内容について3段階評価。希望者には個別対応をする。 ・レポート（2割）・学級経営に関するテーマで意見をまとめさせ、5段階で評価する。締切後、総評を述べ、内容、構成について個別に評価を書いて、返却する。希望者には対面で対応する。 ・提出物（2割）・学級経営案、教室配置図、学級目標等について、具体的にまとめさせ、5段階で評価する。授業内で集約し、総評後、次の授業で個別評価を書いて、返却する。希望者には口頭で対応する。レポート、提出物ともに、授業中に質問をする時間を設け、対応する。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育心理学Ⅰ		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小池 理穂/濱島 秀樹
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 障がいのある幼児、児童及び生徒を含めて、心身の発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場に立って考える。				
授業の概要 中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、重度障がい、LD等の障がいのある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。				
授業計画 第1回： 教育の機能と教育心理学の位置づけ 第2回： 生涯発達の視点 第3回： 発達段階と発達課題 第4回： 学習における知識の役割 第5回： 特別支援教育のあり方 第6回： 障がいのある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性 第7回： 認知の発達を通しての人間理解 第8回： 学習意欲を育てる 第9回： 学級集団の理解と指導 第10回： 友人関係の成り立ち 第11回： 教育評価のあり方 第12回： 評価と指導 第13回： 教師と生徒の人間関係の構築 第14回： 教師の役割 第15回： 学校支援と地域のあり方 定期試験				
テキスト テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。				
参考書・参考資料等 授業の中で紹介する。				
学生に対する評価 定期試験（80％）と授業への取り組み姿勢（20％）による。 課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 点数や採点結果は希望者に開示する。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育心理学Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱島 秀樹
				担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 自己形成のプロセスへの関心を深め、（障がいのある生徒を含め）生徒及び自分自身の理解を促進する。				
授業の概要 人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的とし、自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的問題への理解を深めていきたい。				
授業計画 第1回： 発達の心理学を学ぶ／発達の心理学から学ぶ 第2回： 児童から青年期への心理的变化 第3回： 児童、生徒の理解と発達可能性 第4回： 障がいのある児童・生徒の発達可能性 第5回： 障がいのある児童・生徒を含めた子どもの教育の連続性 第6回： 第二「反抗」期の意味 第7回： 「自分でない」世界の認識から 第8回： 自律性の発達 第9回： アイデンティティの拡散 第10回： アイデンティティの確立 第11回： 自分探し（自分育て）と人間関係 第12回： これからの自分づくり 第13回： 社会性の獲得 第14回： 社会的規範への順応 第15回： 生涯発達の視点と生き方				
テキスト 必要な資料等は授業時に配付する。				
参考書・参考資料等 授業の中で紹介したり配付したりする。				
学生に対する評価 各項目の学習が終わるたびにレポートを提出させる。内容の妥当性と論理構成，心理的分析が行われた結果の内容と記述量により採点する（50％）。授業への取り組み姿勢（ディスカッションへの参加度）により採点する（50％）。点数や採点結果は希望者に開示する。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 特別支援と生徒理解		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 板倉 寿明/佐藤 賢
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標				
生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の発達段階・教育的ニーズに応じた対応・支援方法について、具体的・実践的に追究する。最終的には、他の教員や関係諸機関との連携のもと、組織的に対応するための知識や支援方法を理解する。				
授業の概要				
生徒の多様化が進む教育現場において、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度学習障害、あるいは特別の教育的ニーズのある生徒が、授業時に学習活動に参加している実感・達成感を持って学び、生きる力を身につけることができるように、生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員と協働し、関係諸機関と連携しながら、組織的に対応していくために必要な知識を身につけ、学習支援の方法を理解する。				
授業計画				
第1回： 特別支援教育の理念と仕組み				
第2回： 社会性およびコミュニケーションの障害と対応の基本				
第3回： 身体的な障害と対応の基本				
第4回： 想像力の障害と対応の基本				
第5回： 感覚の過敏さ・鈍感さ、運動の不器用さ、知的発達の偏り等への対応の基本				
第6回： 学習スタイルの特異性への対応の基本				
第7回： ADHD（注意欠陥多動性障害）の特徴と対応の基本				
第8回： LD（学習障害）の特徴と対応の基本				
第9回： 「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容				
第10回： 具体的な支援方法の例示①—コミュニケーション障害への対応				
第11回： 具体的な支援方法の例示②—ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）などへの対応				
第12回： 貧困、母国語の問題など特別の教育的ニーズのある生徒の学習上・生活上の困難と対応				
第13回： 学習支援を必要とする生徒に対する教育課程・個別指導計画				
第14回： 特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭との連携				
第15回： 総括—生徒の自立のために				
定期試験				
テキスト				
授業時にレジュメおよび資料を配付する。				
参考書・参考資料等				
必要に応じて、授業時に適宜指示する。				
学生に対する評価				
小テスト（25％）・レポート（25％）、および定期試験（50％）によって総合的に評価する。また、小テスト、レポート等については、授業内で解説・講評・質問対応等を行う。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育課程		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤田 喜之/織部 秀明
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教育課程の変遷を学ぶことによって、目指す新学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の理論と実際についても論考する。				
授業の概要 特定の発達段階に位置する子どもたちに、各学校が、その教育目的・目標を十分に達成するために、どのような教科・科目をどのように学習させるか、またどの種の活動をどのように体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）の意義及び編成方法について追究する。また、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域の中から、子どもたちが学習・体験すべき内容・要件を選択し、組織化する理論についても、歴史的経緯を踏まえて、明らかにする。				
授業計画 第1回： 教育課程とは（教育課程の意義と役割・機能） 第2回： 教育課程とは（教育課程を考えるいくつかの視点） 第3回： 教育課程とは（教育課程の編成原理） 第4回： 教育課程の歴史的変遷（戦前の教育課程） 第5回： 教育課程の歴史的変遷（戦後の教育課程）＜学習指導要領第一～三次改訂＞ 第6回： 教育課程の歴史的変遷（戦後の教育課程）＜学習指導要領第四～六次改訂＞ 第7回： 教育課程の歴史的変遷（戦後の教育課程）＜学習指導要領第七～八次改訂＞ 第8回： 新学習指導要領総則編（小・中・高） 第9回： 教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態、カリキュラム・マネジメントの考え方 第10回： 教育課程編成における学校行事、部活動の有機的位置づけ 第11回： カリキュラムメイキング（1）教科年間指導計画 第12回： カリキュラムメイキング（2）時間割・週案 第13回： カリキュラムメイキング（3）学習指導案の作成（単元計画） 第14回： カリキュラムメイキング（4）学習指導案の作成（本時の学習） 第15回： 実際の教育課程（小・中・高）を題材にしたグループ討論 定期試験				
テキスト 使用せず				
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、高等学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、その他、授業時に参考文献を紹介するとともに資料プリントを配付する。				
学生に対する評価 ・定期試験（80％）、授業コメント・カード（5％）、スピーチ（10％）、グループ討論評価表（5％）を総合して評価する。 ・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 ・点数や採点結果は希望者に開示する。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 織部 秀明/鈴木 章夫/市来ちさ 担当形態：クラス分け・単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		総合的な学習（探究）の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 探究的な思考を働かせ、総合的で分野横断的な学習をおこなうことを通して、課題解決力を身につけ、適切なライフデザインをおこなう資質・能力の育成を目指す「総合的な学習の時間」について、指導内容、指導計画の作成、指導の方法、学習活動の評価などに焦点を絞り、具体的・実践的に追究する。最終的には各学校の教育目標と現状に合わせた「総合的な学習の時間」の指導ができるような実践力を身につけることが目標である。				
授業の概要 「総合的な学習の時間」の意義と原理を明らかにした上で、指導内容・指導方法に対する認識を深めるとともに、各教科等で育成される探究的な考え方・見方を総合的に活用して、広範な事象を多様な視点から俯瞰的に捉え、実社会・実生活における課題を発見・探究・解決することに繋がる学習を実現するために、指導計画の作成および具体的指導方法、指導に必要な知識、学習活動の評価に関する知識・技能などを身につける。				
授業計画 第1回： 「総合的な学習の時間」の意義と原理—教育課程において果たす役割 第2回： 「総合的な学習の時間」と教科を越えて必要となる資質・能力 第3回： 学習指導要領における「総合的な学習の時間」の目標と指導内容 第4回： 「総合的な学習の時間」の年間指導計画作成と各教科等の学習活動 第5回： 主体的・対話的な課題探求型学習実現のための「総合的な学習の時間」の単元計画作成 第6回： 探究的な学習の過程および実現のための具体的方策 第7回： 各教科との連携①—国語 第8回： 各教科との連携②—社会・理科 第9回： 各教科との連携③—数学 第10回： 各教科との連携④—英語 第11回： 各教科との連携⑤—食育・栄養教育 第12回： アクティブラーニング導入による「総合的な学習の時間」の学習効果 第13回： 地域社会との連携や学校図書館の活用による「総合的な学習の時間」の学習効果 第14回： 「総合的な学習の時間」における生徒の学習状況に関する評価方法および留意点 第15回： 総括—社会人力・ライフデザインに繋がる「総合的な学習の時間」実現のために 定期試験				
テキスト 授業時にレジュメおよび資料を配付する。				
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（文部科学省）、高等学校学習指導要領（文部科学省）、その他、必要に応じて授業時に適宜指示する。				
学生に対する評価 ・小テスト（25％）・レポート（25％）および定期試験（50％）によって総合的に評価する。 ・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 ・点数や採点結果は希望者に開示する。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 特別活動指導法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 章夫/市来 ちさ/不破 民由 担当形態：クラス分け・単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 学校教育における特別活動の意義や特色をその歴史や教育課程上の位置づけを踏まえて理解し、指導実践への意欲を醸成する。				
授業の概要 おもに中学校・高等学校を中心とした特別活動の変遷と、その具体的な活動である学級活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。 そのなかで生徒たちの人間関係や基本的な生活習慣の形成を通した社会の一員としての自覚や生き方を育むための望ましい教育や指導の在り方を探ることを学習目標とする。				
授業計画 第1回：オリエンテーション・特別活動の理念 第2回：特別活動の歴史と現代的意義 第3回：特別活動の目標と内容・他教科との連携 第4回：特別活動の指導体制と指導原理 第5回：特別活動の評価 第6回：学級活動 (1) 学年・学級制の特色 第7回：学級活動 (2) 学級づくり技術と方法 第8回：生徒会活動 (1) 目標と内容 第9回：生徒会活動 (2) 組織と活動 第10回：学校行事 (1) 儀式的行事の計画と実践例 第11回：学校行事 (2) 文化的行事・体育的行事の計画と実践例 第12回：学校行事 (3) 旅行・集団宿泊的行事の計画と実践例① 修学旅行 第13回：学校行事 (4) 旅行・集団宿泊的行事の計画と実践例② 自然教室 第14回：学校行事 (5) 地域での勤労生産・奉仕的行事の計画と実践例 第15回：部活動の実際・まとめ 定期試験				
テキスト (担当：鈴木・市来) テキストは使用せず、授業時に適宜必要な資料を配付する。 (担当：不破) 「どくとるマンボウ青春記」(北杜夫 新潮文庫)				
参考書・参考資料等 学習指導要領 特別活動編(文部科学省・最新版)、学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省・最新版)、改訂特別活動概論(長沼豊・柴崎真人・林幸克 /編著 久美株式会社)、特別活動の探求(原清治 編著 学文社)、特別活動の理論と実践(山口五郎 他著 学文社)				
学生に対する評価 ・期末試験(持ち込み不可) (50%)、受講カードの内容、授業への取り組み姿勢(発言回数、質問回答等) (20%)、レポート (30%) を総合して評価する。 ・内容のある受講カードを紹介することで講評とする。 ・課題レポートについては授業内で解説、質問対応等をする。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育方法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 鈴木 章夫/板倉 寿明
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 今日の学校教育に於ける教育方法の課題について理解するとともに、具体的な小中高等学校の学習指導の在り方を検討することを通して、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。				
授業の概要 今日、いじめ、体罰など学校教育の場で解決しなければならない問題が山積している。教員には、これらの問題が発生する原因や、問題発生 of 把握の方法、対応策、問題を起こさせない学習指導の在り方などについて理解し、よりよい学校教育を実践する力量が求められている。 本授業では、今日の子どもの現状や学習指導の問題点とその改善策について、実態調査や学習指導案、教科書の使用方法など具体的な資料をもとに、よりよい学習指導の在り方について、学生の集団討議も行いながら、教員としての教育的力量を培う。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 学校教育における今日的課題と教育方法の基礎的理論 第2回：今日の学習指導における課題①（教育の歴史から課題をよみ取る） 第3回：今日の学習指導における課題②（今日の教育法令等から課題をよみ取る） 第4回：児童・生徒の「生きぬく力」を育てる指導の方法 第5回：主体的な学びを促す教材の研究①（個別の教材に見られる価値の追究） 第6回：主体的な学びを促す教材の研究②（体系化された教材に見られる価値の追究） 第7回：児童・生徒が自ら問題や課題を発見できるようにする指導の方法 第8回：問題や課題を発見できるようにする情報機器活用の方法 第9回：児童・生徒が自ら問題や課題を解決できるようにする指導の方法 第10回：グループワークの効果と問題点 第11回：児童・生徒の問題解決を支援する情報機器活用の方法 第12回：学習指導における形成的評価と指導の方法 第13回：「習得型」の学習活動を支援する情報機器活用および授業展開・方法 第14回：「体験的な学習活動」における成功経験や失敗経験の活用と必要な配慮 第15回：よりよい学習指導のあり方とその実現のために必要な研修活動 定期試験				
テキスト 使用せず				
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、中学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、高等学校学習指導要領（文部科学省・最新版）、その他、必要に応じて配付する。				
学生に対する評価 学生の積極的な授業への取り組み姿勢（25％）と、小テスト（25％）、学期末テスト（50％）等によって評価する。課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。点数や採点結果は希望者に開示する。				

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育とICT活用		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：神谷 政和 / 内木 晃 担当形態：クラス分け・単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
(1) 情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。				
(2) 情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。				
(3) 児童・生徒に情報モラルを含む情報活用能力を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。				
授業の概要				
学校における情報通信技術の活用について、現状と今後の方向性を理解する。授業でのICT活用の他、授業準備、学習評価での活用、校務での活用や教育データの活用等を理解する。また、情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。そのために情報通信技術を効果的に活用した模擬授業を行ったりデジタル教材を作成したりして体験的に学修を行う。				
授業計画				
第1回：授業のねらいと目的について				
情報通信技術の活用と意義の在り方(1)現代社会における情報通信技術の役割				
第2回：情報通信技術の活用と意義の在り方(2)個別最適な学びを支える情報通信技術の活用				
資質・能力や学習場面に応じた情報通信技術の効果的な活用				
第3回：各教科等で横断的な情報活用能力の育成方法				
特別の支援を必要とする児童・生徒に対する情報通信技術の活用				
第4回：児童・生徒に情報通信機器の基本操作を身に付けさせるための指導法				
外部機関との連携および学校におけるICT環境の整備の在り方				
第5回：各教科等における情報通信技術を効果的に用いた模擬授業(1)				
学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの活用				
第6回：各教科等における情報通信技術を効果的に用いた模擬授業(2)				
情報モラル・教育情報セキュリティ教育の重要性				
第7回：各教科等における情報通信技術を効果的に用いた模擬授業(3)				
遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法				
第8回：各教科等における情報通信技術を効果的に用いた模擬授業(4)				
総合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進				
定期試験				
テキスト				
ICT活用の理論と実践（稲垣忠・佐藤和紀（編著）他、北大路書房、2021）				
参考書・参考資料等				
教育の情報化に関する手引（文部科学省、2019）				
各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について参考資料・解説動画（文部科学省、2019）				
学生に対する評価				
課題（20%）、模擬授業（30%）、デジタル教材の作成（20%）、定期試験（30%）により、総合的に評価する。				

授業科目名： 生徒・進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 梅藤 仁志/神谷 政和/小川 裕之/ 山田 知子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導や進路指導に関する基本的な理論を学び、学校が抱えている今日的課題への具体的、実践的対応を検討する。青少年の健全育成に携わることができる教員の育成を図りたい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により、生徒が健全に生きる力を育む生徒指導の在り方を求める。そのうち、進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習させる。これらの学習を通して、個に応じ、適切な指導ができる能力を育成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス、レディネステスト、学校教育における生徒・進路指導の意義</p> <p>第2回：学校が抱えている今日的課題とその対応策（1）各教科の指導と生徒指導の意義</p> <p>第3回：学校が抱えている今日的課題とその対応策（2）道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義</p> <p>第4回：生徒指導の在り方（1）生徒指導の考え方とその推進 児童生徒理解にも基づく生活習慣・規範意識の確立</p> <p>第5回：生徒指導の在り方（2）生徒指導に関する法制度等① 校則、懲戒と体罰、出席停止</p> <p>第6回：生徒指導の在り方（3）生徒指導に関する法制度等② 青少年の保護育成に関する法令</p> <p>第7回：生徒指導の在り方（4）集団指導における教職員の指導力および組織的取り組み</p> <p>第8回：生徒指導の在り方（5）個別の課題を抱える児童・生徒への指導 ①問題行動の早期発見 ②いじめ等への対応 ③地域関係機関との連携</p> <p>第9回：生徒指導の在り方（6）部活動の意義・指導の在り方</p> <p>第10回：進路指導の在り方（1）自己確立・自己意識から自己実現へーポートフォリオの活用ー</p> <p>第11回：進路指導の在り方（2）キャリア教育の視点に基づく生き方・ライフデザインの探求</p> <p>第12回：進路指導の在り方（3）進路指導とキャリア教育の組織的・協同的指導体制</p> <p>第13回：進路指導の在り方（4）社会・地域で求められる力</p> <p>第14回：教育相談の基礎 生徒指導における教育相談の課題と展望</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>生徒指導提要（文部科学省・改訂版）、授業時に紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢（20%）、課題の提出（20%）、定期試験（60%：持ち込み不可）などにより、総合的に評価する。 ・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。 			

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育相談Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 神谷 政和/小池 理徳/濱島 秀樹 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
教師が教育相談の基本を理解しているか否かは、生徒の健全育成に大きな影響を与える。現在学校現場では対応が難しい問題が次々と起きている。教師による早期発見は不可欠のものである。教育相談の基本理論と具体的な事例で対応方法等を学ぶことで、生徒を健全に育成することの一助とする。			
1. カウンセリング・マインドを理解する。 2. 生徒を支援するための基本的な理論、技法、姿勢を身につける。 3. 学校不適応の理解、対応法について学ぶ。 4. 生徒、同僚、保護者、その他の人たちとの円満な人間関係を構築するためのコミュニケーション力を醸成する。			
授業の概要			
教育相談の理論、歴史的な経緯、具体的な対応訓練等を通じて、実務の基礎を身につけさせる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（教育相談とは、現場での必要性） 第2回：教育相談、学校カウンセリングの歴史的経緯 第3回：教育相談と生徒指導 第4回：教育相談の進め方（校内の連携、第三者機関との連携） 第5回：子どもの理解、児童期、青年期の特徴 第6回：教師のコミュニケーション 第7回：相談とカウンセリング（理論と技法） 第8回：適応と不適応 第9回：問題行動のとらえ方とその対応 第10回：不登校とその対応を考える 第11回：いじめとその対応を考える 第12回：非行とその対応を考える 第13回：発達障害について考える 第14回：教育問題と教師の役割 第15回：こどもの居場所作りと学級経営・まとめと今後の課題			
定期試験			
テキスト			
（担当：神谷）「生徒指導提要」（文部科学省・改訂版）、（担当：小池）「生徒指導提要」（文部科学省・改訂版）（担当：濱島）「教育相談ワークブック第2版－子どもの育ちを支える」（向後礼子他著 ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等			
適宜、授業の中で紹介する。			
学生に対する評価			
・定期考査（4割：持込不可） ・授業への取り組み姿勢（発言内容・回数等）（3割） ・事例発表（3割） ・課題（小テストやレポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。			

教育の基礎的理解に関する科目等：シラバス

授業科目名： 教育相談Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 圭子
				担当形態：単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 「教育相談Ⅰ」での学習を更に進めて、教育現場の抱える問題について理解を深め、心を開き合う人間関係を築くための教育相談の実践力を身につける。				
授業の概要 「教育相談Ⅰ」で学んだ教育相談の理論を踏まえ、具体的な教育相談の場面を想定し、ケーススタディを体験的に行う（学内諸機関、学外機関との連携を含む）ことで、教育相談実務の応用力・実践力を養う。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 「よく聴く」ということ 第2回：カウンセリングの基礎的知識をふまえた、教育相談 第3回：教育相談における教師の役割と学内諸機関・学外機関との連携 第4回：学校における教育相談の課題 第5回：教育相談のケーススタディ：「不登校」について 第6回：教育相談のケーススタディ：「いじめ」「虐待」について 第7回：教育相談のケーススタディ：「発達障害」について 第8回：教育相談のケーススタディ：「自閉症」について 第9回：教育相談のケーススタディ：「自傷」について 第10回：教育相談のケーススタディ：「うつ」「統合失調症」について 第11回：教育相談のケーススタディ：「家族関係の問題」について 第12回：応答訓練 「保護者の気持ちを理解する方法と相談への対応」について 第13回：教育相談を生かした「個別の指導計画」の作り方 第14回：アサーション・トレーニング 第15回：教師の上手な話し方				
テキスト 使用せず。毎回、授業内容についてのレジュメと資料を配付する。				
参考書・参考資料等 授業の中で紹介する。				
学生に対する評価 ロールプレイ・レポート（70％）、毎回授業時のミニレポート及び授業への取り組み姿勢（30％）。 ロールプレイ・レポートは15回目に、ミニ・レポートは次回の授業の中で解説・講評・質問対応などを行う。点数や採点結果は希望者に開示する。				

シラバス：教職実践演習

教職実践演習(中・高)		単位数：2単位		担当教員名：澤田 喜之/梅藤 仁志/織部 秀明/神谷 政和/ 鈴木 章夫/内木 晃/武藤 洋子/小川 裕之/山田 知子	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取 (※2)	○
受講者数 約20名程度 9クラスで実施					
教員の連携・協力体制					
教科に関する専門的事項に関する科目や現場の先生をゲストスピーカーとして招き、連携・協働して学生の力量向上を図る。					
授業のテーマ及び到達目標					
①使命感や責任感、教育的愛情等、②社会性や対人関係能力、③生徒理解や学級経営、④教科等の指導力、に関する事項を中心に、教職課程の掉尾に位置する科目として、教員に求められる必要な実践的能力の拡充を目指す。テーマは「自ら考え、行動し、検証すること」とする。					
授業の概要					
実践的能力の拡充のためには、学生が自ら考え、行動し、検証する過程を通して数々の気づきや発見に恵まれる必要がある。そのため、①事例研究を中心に、②ロールプレイを中心に、③教育実習の成果を踏まえて、④研究協議の形態、という四つの活動領域を設け、それぞれの領域を担当する教員が複数かわって授業を構成する。学生たちは参加型のメニューに取り組む中で、『教職履修カルテ』を活用し、教職課程科目での学修を振り返る。また、教材・教具づくりや模擬授業においてICTを活用して、教員としての授業力を身につけているかを確認する。これらの取り組みを通して、教員として必要な実践的能力の拡充を目指す。					
授業計画					
第1回： 教育公務員として＜事例研究を中心に＞（澤田）					
第2回： 教育実践者として＜事例研究を中心に＞（澤田）					
第3回： 教育成果（アカウンタビリティ）の担い手として＜事例研究・フィールドワークを中心に＞（織部）					
第4回： 生徒との人間関係づくり＜ロールプレイを中心に＞（梅藤・武藤）					
第5回： 保護者との人間関係づくり＜ロールプレイを中心に＞（鈴木）					
第6回： 教職員同士の人間関係づくり＜ロールプレイを中心に＞（武藤）					
第7回： 教案づくり(板書・発問計画を含む)の実際＜教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に＞（織部・梅藤）					
第8回： 教材・教具づくりの実際 ―ICTの活用― ＜教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に＞（内木・神谷）					
第9回： 模擬授業と批評協議 ―ICTの活用― ＜教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に＞（内木・鈴木）					
第10回： 学級経営の指針・方針＜教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に＞（小川）					
第11回： 学級経営の1日・1学期・1年 ＜教育実習の成果を省みた上で、実践活動を中心に＞（小川）					
第12回： 学級経営の成果と検証＜教育実習の成果を省みた上で、実践活動・フィールドワークを中心に＞（山田）					
第13回： 学校の現状 ＜学習指導、生徒指導、進路指導、保健指導について（シンポジウムの形態で）＞（山田）					
第14回： 学校の抱える今日的課題と対策 ＜学習指導、生徒指導、進路指導、保健指導について（シンポジウムの形態で）＞（神谷）					
第15回： 論作文、『教職履修カルテ』を通じた全体の振り返り（神谷）					
テキスト					
使用せず。					
参考書・参考資料等					
適宜指示する。					
学生に対する評価					
・まとめの論作文（40％）を課するとともに、レポート（30％）や諸活動への参加態度（30％）を総合的に勘案して評価する。					
・課題（レポート等）については授業内で解説・講評・質問対応等を行う。					

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。